藤原妹紅を愛し隊

FUJIWARA NO MOKOU FAN BOOK

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

強
弱

バカ

時は五月三十日
その事件は起こった

ばかな！

どういうことだ
これはッ!?

5月30日

なんとか例大祭に
ついに俺らの嫁がッ……!?

許されない…
これは許されない！

なんとか例大祭4：藤原妹紅

琥珀○た…だと？
パイパンじゃないか！
パイパン！

←大事なことなのでx

←返信　♻リツイートの取り消し　★お気に入り

いけない…TLが!!
このままでは妹紅クラスタの
ソウルジェムが濁りきってしまう！

僕らの妹紅が
犯されてしまう…!!

※TL上の妹紅クラスタの叫び声

そうだ

他人にヤられるのが嫌なら
AV男優
自分で妹紅を愛し犯せばいいんだ

そうして僕らは
ペンという名の竿を
握り締めた

…ブルーレイは買いました

藤原妹紅を愛し隊

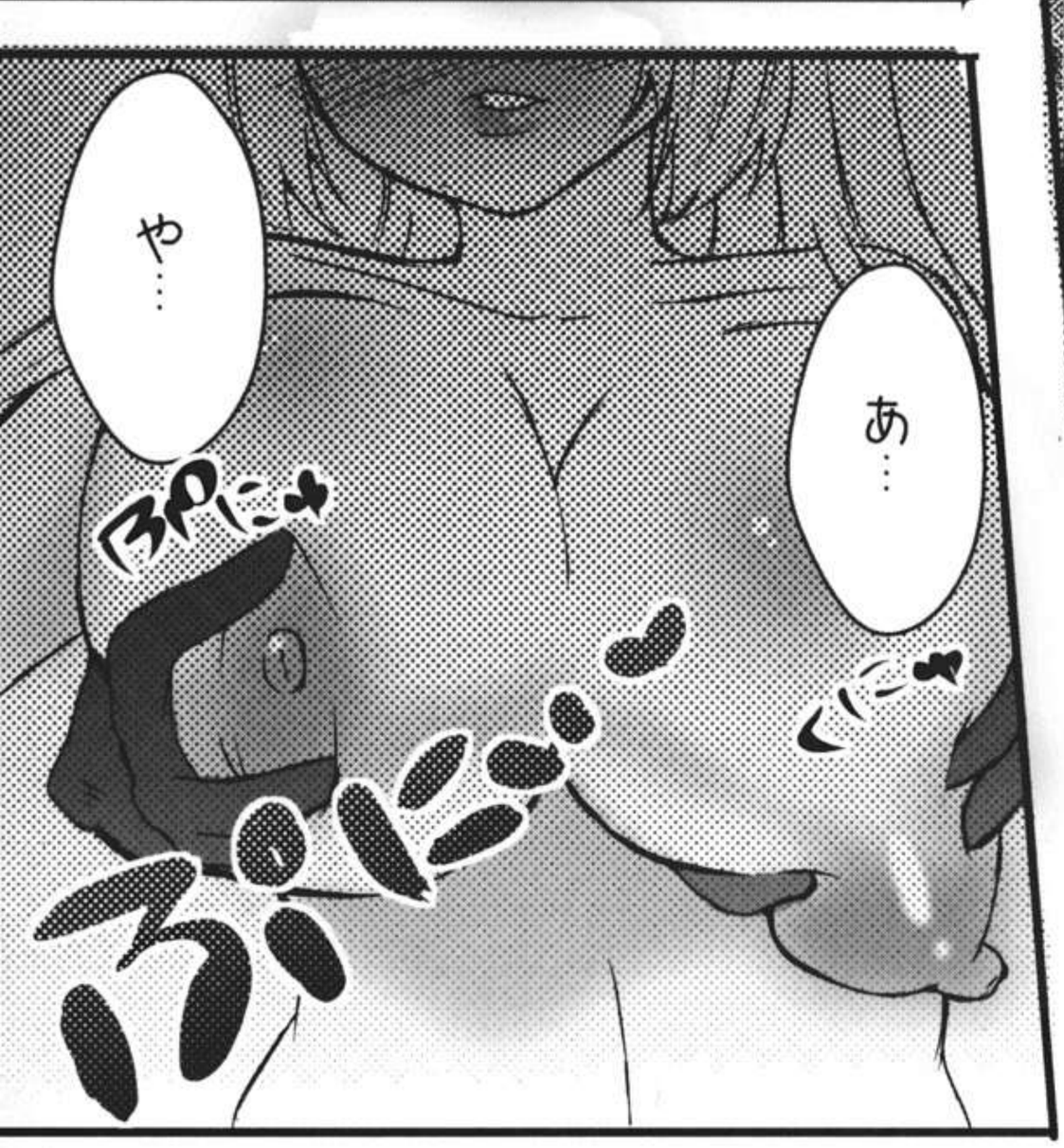
FUJIWARA NO MOKOU FAN BOOK

目次

- 03～06：カラーイラスト
  137／ことの／Akasia／にしお
- 07～08：プロローグ
  菊壱モンジ
- 10：目次
- 11～16：「あやとり遊び。」
  137
- 17～20：「妹紅が罪袋とセックスさせられるお話」
  マッツラー
- 21～26：「おもらしした朝は」
  おじや
- 27～34：「月が見ている」
  青時
- 35～40：「実際にやってみた」
  ハリヤー
- 41～48：「藤原妹紅を愛したい！」
  菊壱モンジ
- 49～53：座談会
- 54～55：参加者コメント
- 58：奥付

知ってるかい？
最近、迷いの竹林にでる
…少女の話…

ん？　その少女が
なんだって？
行ってみたらわかるさ…



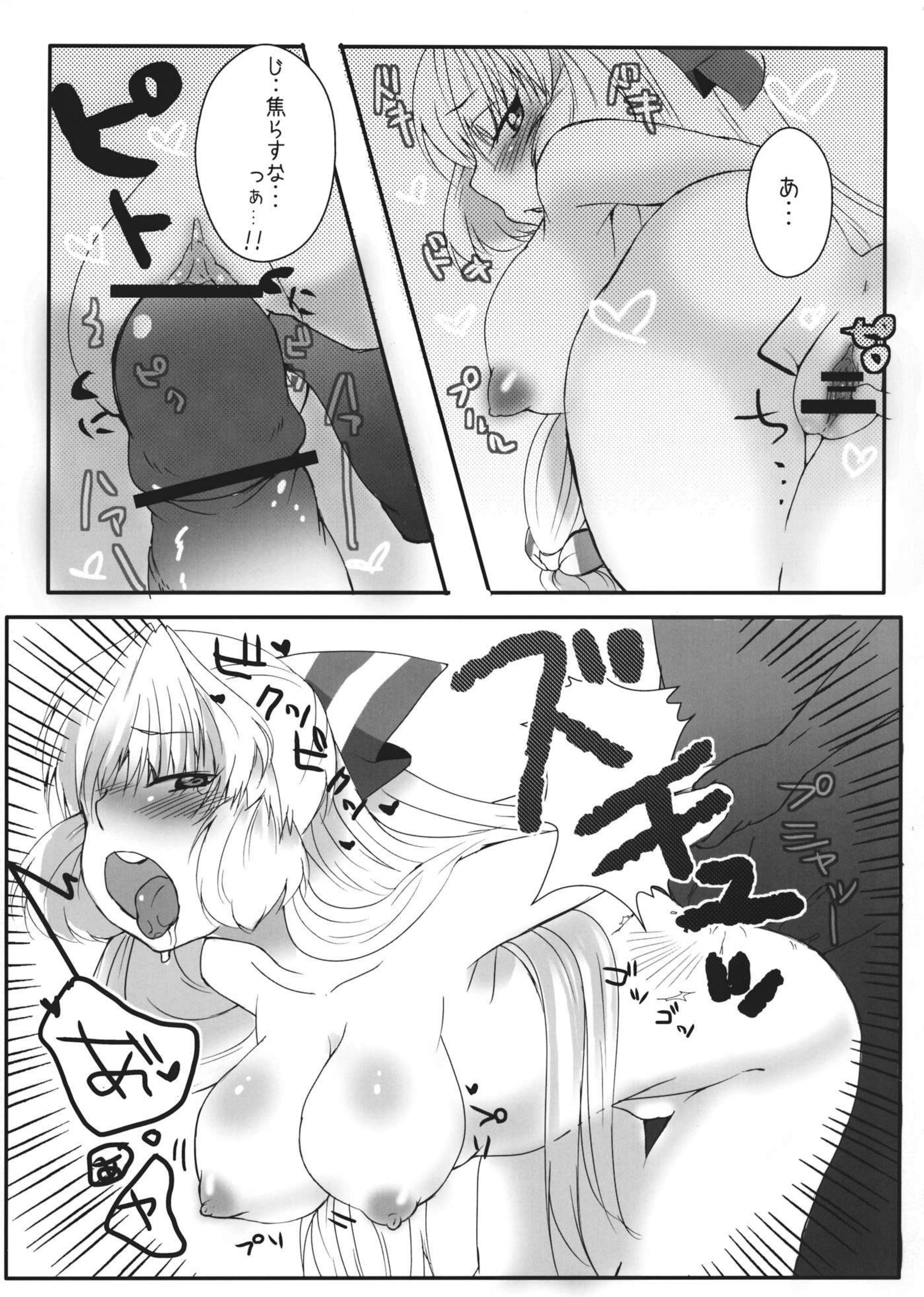
ん…
んぶ…
ちゅぱ
ぴちゃ

ん。
ぺろぺろ

んっ
ぎゅ
ぎゅ
く…あ…!!
舌が…絡みついて…
フッ

ふっ
ぱぁ

ズーン


あ…
じ…焦らすな…
つぁ…!!
ビクッビクッ
ボン
プシャー
ゴリ
ゴリ
プル
ぷる

ぬぬぬ
ぬぬぬ
ぬぬぬ

ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる

ハァ…

ハァ…ァ…

ゴポ

あ…

ポト

ポト

迷いの竹林の
夜はさらに
ふけてゆく…

どうもっ！
清く正しい
射命丸です！
いきなりですが

今日は
藤原妹紅さんで

AV撮影を
ちょっと待てぇーい!!

何ですか？
何か文句でも？

ガルル

あるに決まってる
でしょ！

いきなり拉致
されてAVとか
言われて

納得できるわけ
ないでしょ！

美しい映像を
ご覧になって
お待ちください

いやでもこれ
そういう合同誌
なんですよ

いきなり
メタ発言!?

作者がろくな
思いつかない
ですから

仕方ないじゃない
ですか？

ちくしょう！
どいつもこいつも!!

ああもう…
4ページしかない
んですから

皆さん
ヤッちゃって
ください！

うわあああ
あっ!!?

ほらほら急いで急いで！

ビクッ

こらっ！離しなさい!!

ビリ

よいしょっと

ぶぶぶぶ

んんッ？！

んんッ♥

ぐぷ♥

じゅぷ♥

あ～…上目遣いいいねえもこたん

うっ…！

ぶるる！

びゅ

ぶるぶるあっ！

えっ…？早くない…？

どる。

ページの都合上俺たちは全員早漏だッ…!!

うわぁ…

ちっ…

じゃあこっちも急ぎで行きまーす

あっ…こら！やめて…！

ひうっ…！

いただきまーす

ぐぷじゅん

ぐ

もこたん！こっちも咥えてよ

ん〜〜ッ！

おおっ…！

きゅッ

もこたんの手ちっちゃくて気持ちいー！

ぶぽ

ああ〜…妹紅の膣内いい具合だよっ…！

んふッ

くっ…！そろそろ出すよ！

じゅぷぷ

ん〜〜ッ

ぴゅぴゅ

あっ
あぁ
あぁ
ぴくぴく
ぱたたっ
んっ…!
はぁ…
はーい皆さん
お疲れ様でしたー
……
うーん…
やっぱり
見切り発車で
描き始めちゃ駄目
ですね！
散々やっといて
その言い草!?

おわり

フフン！あれは潮吹きってやつだもん

千年生きてるとねこうなることもたまにあるのよ…

ぎゃはは
ぎゃはは

ぱさ

おもらしした朝は
おじや

なにがおかしいのよ！

むしろどこがおかしくないのよ！

さすがにその言い訳は意味がわからなすぎて逆に尊敬するわ

言い訳じゃないってばっ！

ふーん…

な

なによっ

じゃあさ？

ぴく

もう一回やってみせてよ

えっ…

宿賃がわり

だって…

ほらやっぱり出来ないんじゃない

で

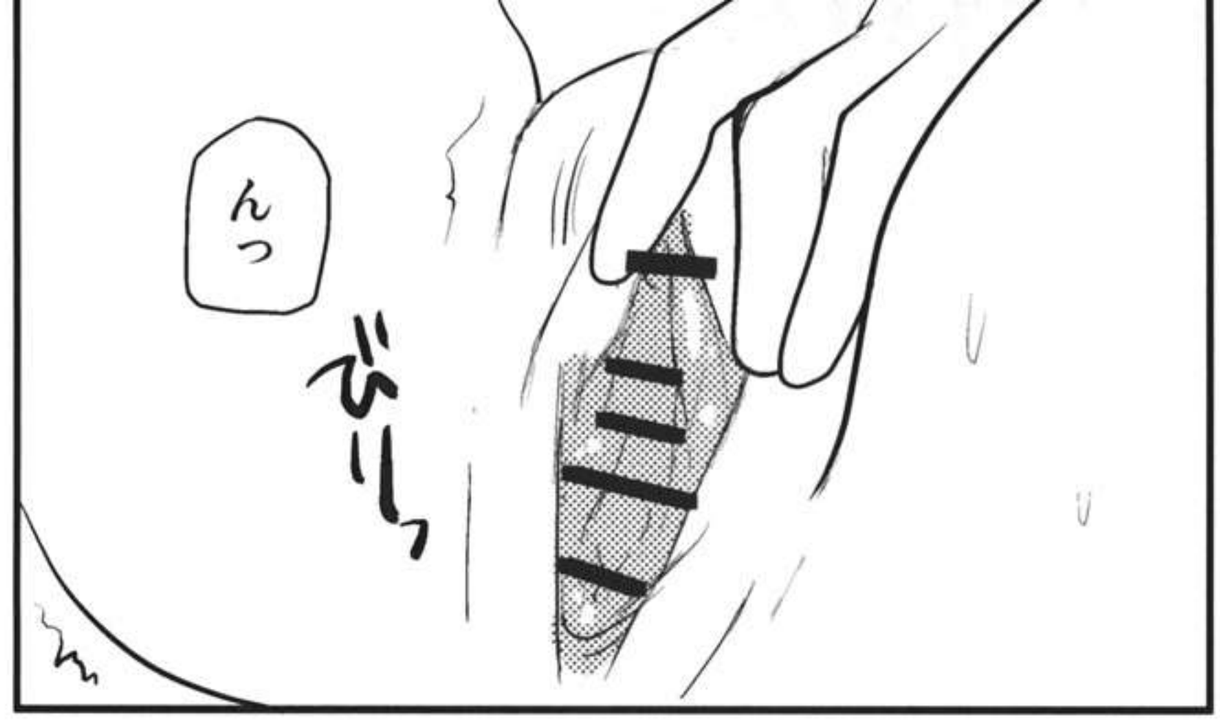
出来るわよ！

じゃやってどうぞ

フン言われなくてもやるわよっ

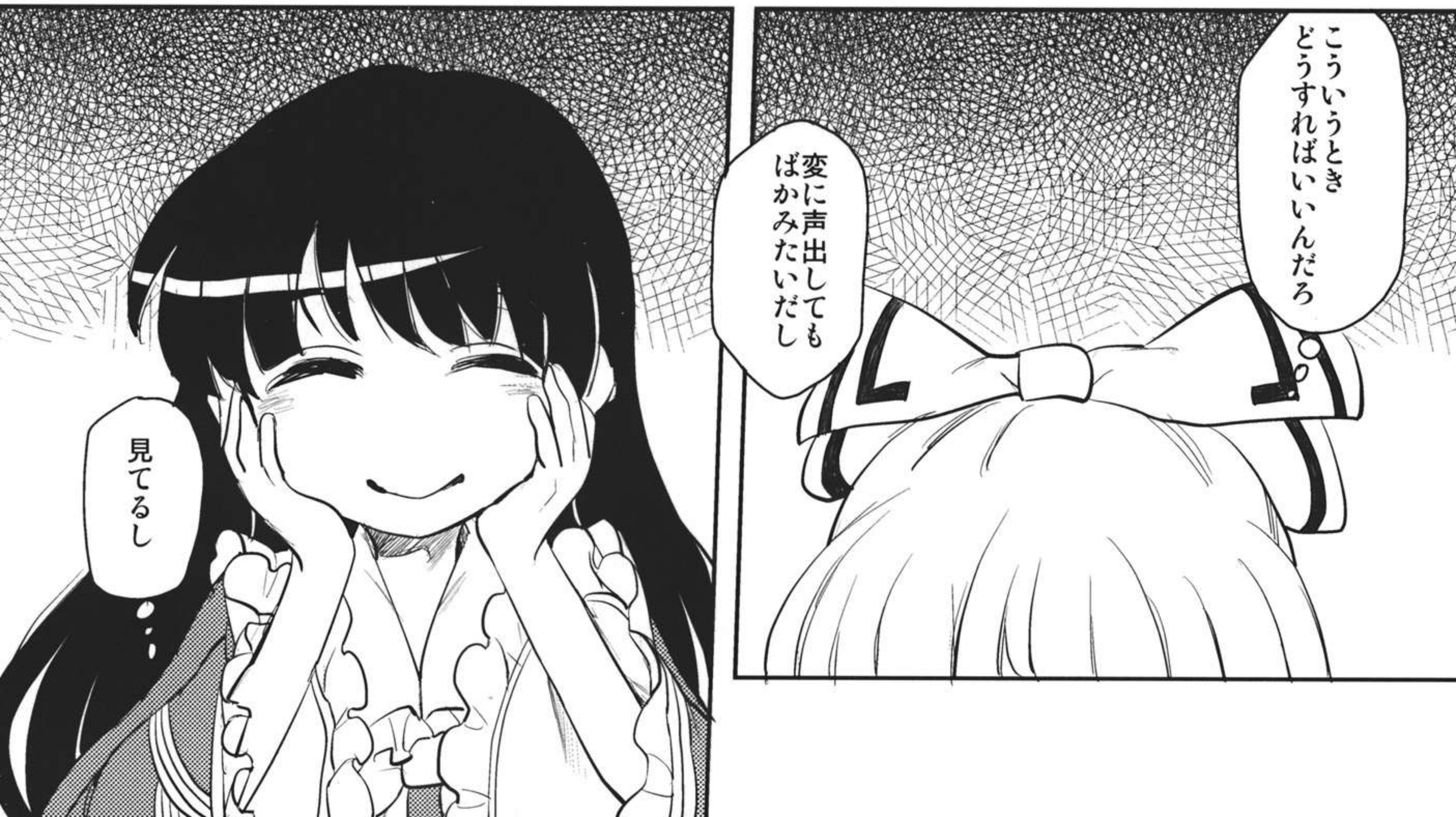
こんなの

どうってことないもん


んっ
ぶりっ

ん…
くにくに

あっあっうっ
ぎゅぅぅっ


こういうとき
どうすればいいんだろ
変に声出しても
ばかみたいだし
見てるし…

ひぐ
かぐやぁ

やっぱり
やだ…

できないよぉ…

す、

ひっ

あっ

いっ

だめ

どお出そ？

あおなか

ぐっ

おしっこでちゃう…

ふあっ

びくっ

ぶるっ

ぴゃっ

よくできました！

おしまい！

月が見ている

著者／青時

『出会いというのはいつだって、衝撃的で、運命的で、刹那的である』

これは、別に誰か偉い人が言っていたというわけではなく、少年が心の奥底から込み上げてくる想いを、なんとか言葉に置き換えてみようと努力した言葉だ。

言ってしまえば、一目惚れである。

新円の月に照らされる世界。うっかり竹林に足を踏み入れてしまった少年は、妖怪に襲われた。夜の竹林に、ただの人間が足を踏み入れるなど、自殺行為はなはだしい。

少年はそれを知っていながら、それを軽んじた。まさか自分が襲われることなんてないと、確証のない自信に背中を押され、死地に沈み込んだのだ。

美しい歌声に導かれ、竹林を歩き回った結果が、夜雀のディナーのお相手だったのだ。無論、食材は少年自身となる――はずだった。

少年の悲鳴を聞きつけたのか、同じように歌声に導かれたのか――熱風が巻き起こった次の瞬間、少年の隣には少女が立っていた。

腰まで届く、燃え尽きたかのような白い髪。烈火の如く赤い瞳。陶器を連想させる白い肌。そして、喧嘩相手を見つけたことに喜んでいるような、邪気のない笑顔。

その全てが、一瞬にして、少年の網膜に焼き付いた。

同時に、胸が焦がれるような想いが心中を満たしていった。恋愛経験に疎い少年にも、自分に何が起こったかは理解ができた。自分はこの人に惚れたと、自覚することができた。

それからの展開は瞬く間に終わった。妖怪は燃え盛る少女（比喩ではない）の猛攻に成す術無く、涙を浮かべて夜空へと消えて行った。ちょっぴり同情をしてしまいそうなぐらいに、弱い者イジメな光景だった。

一仕事終えましたというように、少女は軽く息を吐くと、未だに地面に座り込んでいる少年に手を差し伸べ、

「お前、馬鹿な奴だなー」

と、呆れ顔で言った。

☆

少女の名前は藤原妹紅。曰く、人間ではないらしい。少年もそのことは薄々感づいてはいたが、詮索するようなことは絶対にしなかった。踏み込みすぎてしまって、妹紅の存在が遠くなることを恐れてたからだ。

少年は一途に、妹紅のことを想い続けた。妖怪が襲ってこない昼間の時間を狙って、甲斐甲斐しく竹林に足を運んだ。妹紅も、最初こそは「物好きな奴だなー」と相手をしていたが、少年の胸に秘められた『想い』を感じるようになり、満更でもない気持ちになっていた。永らく人との交流を絶っていた妹紅にとって、少年はここ数百年来のイレギュラーになっていた。

区分は異なるが、両者にとってお互いは『特別』になっていたのだろう。

☆

「妹紅さーん！」

――あぁ、今日も来てくれた。

少年の声を確認して、妹紅はホッと胸を撫で下ろす。無邪気に腕を大きく

振って、自分に向かってくる少年のことを、妹紅は気に入っていた。
自分の心が熱を持ったのは、何百年振りだろうかと、妹紅は考えていた。ほんの些細な憂いさえ粘りつくように離れなかったこれまでの時間が、どんなにちっぽけなモノだったのかを、改めて痛感していた。
自分が見てきた世界の価値観を変えてくれた少年に、妹紅は感謝していた。そして、それ以上の気持ちが自分の中に芽生えつつあることも理解していた。

――だから、きっとそう遠くないうちにやってくるかもしれない、幸せな未来を想像したっていいだろう？

遠い過去に置いてきた全ての思い出に囁きかけるように、妹紅は心の中で呟いた。

☆

「――いや、遠くないうちとは言ったけど、早すぎじゃないか……？」
「何か言いました？」
「いや、な、何も……」
深々と降り積もる雪を、縁側で眺めている妹紅と少年。腰掛けた距離は、いつの間にか縮まっている。温かいお茶を飲みながら、ぽりぽりと煎餅を頬張る。そんなゆっくりした時間を、二人は過ごしていた。
幸せな気持ちで、妹紅は満たされていた。同じ気持ちを抱いているのか、少年の頬も少し赤い。もしかしたら、緊張しているのかもしれない。恥ずかしいのかもしれない。
きっと自分も同じような顔をしているのだろうと想像して、妹紅も顔が熱くなった。
「ふぁっ!?」
縁側についていた手に、少年の手がそっと重ねられた。突然のことに変な声を出してしまった妹紅は、恥ずかしさから紅潮し、動悸が激しくなる。
拒めない。そのことを自覚してしまい、さらに顔が熱くなる。少年もその様子をしっかりと視界に収めたのか、ゆっくりと顔を近づけてくる。
二人の距離は、ゼロになった。
「んっ」
優しく触れ合うだけのキスを、一度だけ交わした。お互いの熱が吐息へと変わり、唇がむず痒くなる。
「ぷはっ」
息を止める必要がないのに、お互いに呼吸を忘れていた二人は、顔を見合わせ、笑ってしまう。初々しいにもほどがあると、半ば自身に呆れつつも、妹紅と少年は再び唇を重ねた。
「ん、ふ……」
「ん、ぐ」
今度は少し乱暴なキス。お互いの唇をむさぼるように、激しく唇を重ねる。熱い想いが決壊してしまったかのように、とめどない気持ちのやり場を求めて、言葉をなくしたまま互いの熱を求め合う。
「ちゅ、ン……ちゅる、ふ……」
唇を離しては、何度も唇を重ねる。次第に舌を吸いあい、口内を貪るように唾液を吸い込む。ディープキスを繰り返しているうちに、頭がぼぅっとし、何も考えられなくなってくる『危険』を妹紅は感じ取っていた。
しかし、少年を目の前にしては、そんな些細な感情は、快感の波に流されてしまう。

もう、止まることはできない！

「妹紅さん！」

少年も気持ちは同じく、枷を外された獣のような勢いで、妹紅の体を押し倒した。突然のことに短い悲鳴が口から漏れたが、その悲鳴すらも飲み込むように、少年は妹紅の唇にかぶりつく。

完全に二人の世界に迷い込んでしまったかのように、視界には互いの姿しか映っていない。

何度かのキスを繰り返しているうちに、瞳を潤ませている妹紅。少年はゾクゾクと背筋を這い上がってくる快感をもっと求め、扇情的になっていった。

「えっと、胸……見てもいいですか？」

少年のリクエストに、本当に燃え上がってしまったのではないかというほどに、顔を真っ赤にする妹紅。

「ば、馬鹿かお前！　いちいちそんなこと――」

聞くなよ！　という言葉を妹紅が発する前に、少年は妹紅の衣服を脱がしにかかっていた。布の擦れる音がしたと思った次の瞬間には、サラシが巻かれただけの胸元が露わになっていた。

「～～～～ッ！」

羞恥から声にならない声を発し、胸元を両腕で隠そうとする妹紅。その腕を優しく、ゆっくりとした手つきで解いていく少年。完全に主導権を握られてしまった妹紅は、ただされるがままとなっていた。

ゴクリと、少年は生唾を飲み込んだ。

「妹紅さん……すごく、キレイだ」

「え、ぅあ、ありがと……？」

動転しているのか、なぜかお礼を言ってしまう妹紅。ハッ、と我に返ると、誤魔化すように言う。

「えっと、ここじゃ寒いし……中入ろ？」

上目遣いで恥じらいながらのそのセリフは、少年のハートを撃ち抜くには充分すぎる破壊力を持っていたが、妹紅は全く気付いていなかった。

妹紅にしてみれば、月に見られているのが落ち着かなかっただけなのだが。

「えと、それじゃ」

失礼します、と。妹紅の両脚と背中に優しく腕を回す少年。いわゆるお姫様抱っこの形になり、妹紅と少年は寝室に移動した。

布団の上に妹紅を寝かせると、少年は覆いかぶさる姿勢を取る。これでもう妹紅に逃げ場はない。まぁ、もとより逃げるつもりはないのだが。

（……いつも一人で寝てる布団に、ふっ、二人で……！）

今度から寝るたびに、今夜のことを思い出してしまう！　と妹紅が余計なことを考えているうちに、妹紅の小振りな乳房に手を伸ばす少年。

「ひゃっ!?」

少し冷たい指が、弾力のある肉を押し込むように触れている。少年は指を跳ね返そうとしてくる感触に、すっかり夢中になっていた。

「はぅ、ン……もう、ちょっとゆっく、ふぁっ」

「あ、ごめんなさい！　こ、これぐらい……かな？」

初めて女性の体に触れる少年は、妹紅のことを気遣いながらも、ちょうどいい力加減を探り出そうと必死だ。いろんな角度から、少しずつ加減を変えて乳房を揉んでいく。

（う、ちょっとずつ体が痺れて……）

少年の指と、荒い吐息が肌をなぞるたびに、妹紅は自分の体がどんどん敏感になっていくのを感じ取っていた。その証拠に、乳房の先――桜色をした突起物が快感を主張するかのようにピンと立っている。

それを意識した瞬間、少年の指が乳首に触れた。

「きゃあっ!?」
体が痙攣してしまったかのように、背中を反らして悲鳴を上げる妹紅。乙女の悲鳴が思わず出てしまった。突然体の敏感な部分を触られて、驚いてしまったのだ。
「わ、ごめんなさい！」
「ん、大丈夫……ちょっと驚いただけだから」
さっきから少年に謝らせてばかりだな、と。妹紅は少々申し訳ない気持ちになってきた。というか、先ほどから少年しか愛撫をしていない。やられっ放しは性に合わないと、妹紅は意を決して少年を押し返した。
「えいっ」
「うわっ」
ところが勢い余ってしまい、上下関係を逆転させるだけのつもりが、少年に真逆を向かせる姿勢になってしまった。つまるところ、妹紅が上、少年が下となり、お互いの下半身に顔を近づける結果になった。
少年や妹紅はその位置関係のことをどう呼ぶかは知らなかったが、つまるところシックスナインである。
妹紅はすっかり盛り上がった少年の下腹部――男性器がある場所に視線を釘付けにしている。しかし、見ているだけでは先に進まない。一度大きく深呼吸をし、衣服を一気に引っぺがした！
「うわわ！」
意外と大胆な妹紅の行動に、戸惑いを隠せない少年。ずっと攻め側だった少年は、爆発しそうな気持ちを抑えようと必死に、苦しい思いをしていた。しかし今、妹紅の目の前にははち切れんばかりに膨張した逸物が公開された。少年も、される側の立場になって羞恥心を取り戻したのか、言葉が上手く出せなくなっていた。

（苦しそう……）
妹紅は吸い寄せられるように逸物に手を伸ばすと、しなやかな細指を絡めた。そして、ゆっくりと、撫でるように上下に指を走らせる。
「う、わ。ちょ、ちょっとまっ」
少年の言葉を無視するように、妹紅は夢中で指を動かし続ける。赤く膨らんだ亀頭の先っぽから裏筋をなぞり、今度は二本の指で挟みこんで上へ上へと指を巡らせる。
（くっ、負けてたまるか！）
妹紅のぎこちない手つきに、我慢がきかなくなった少年は、お返しとばかりに妹紅の股間を優しく突いた。
「あっ！」
体中に伝播するかのように、未知の快感が広がっていく。妹紅はそのことに恐怖を感じながらも、その先まで進んだらいったいどうなるのだろうかという好奇心にも身を疼かせていた。
妹紅の手つきを真似るように、少年も一本の筋を上下になぞる。心なしか、指先が少しずつ湿ってくるような感触があった。
「あれ、妹紅さん……濡れてる？」
「ばっ!? いちいち口に出さなくていいってひゃあっ!?」
妹紅が言い切る前に、少年は妹紅の下着を解いて秘部を露わにした。冷たい空気が敏感な場所をなぞり、妹紅は身を震わせる。
ぴたりと口を閉じた淫裂。無毛のぷっくりとした恥丘は漏れ出した愛液で濡れている。
少年は溢れ出る愛液が零れないようにと、自らの口でフタをした。
「ひゃ、ンっ！ そ、そんなところっ！」
生温かい感触が割れ目をなぞる感覚に、妹紅は弛緩しそうになった。しか

し、負けず嫌いの彼女の性格が幸いしたのか、なんとか四肢に力をこめて、それを免れた。代わりに、小さい口から我慢汁を流している少年の逸物に、お返しとばかりにかぶり付いた。

「あひゃっ、待って、待って――」

未知の快感に、思わず笑ってしまうような悲鳴を漏らす少年。

舌のざらっとした感触と、表面に絡みつく唾液の温かさ。そして何よりも好きな相手に自分の分身を咥え込まれているという現実が、少年に与える快感を倍増させていく。

（ン、ふ……ちょっと苦い、かも？）

ちゅ、ぢゅぷ……ちゅる、ちゅるりぅるっ……。

唾液と逸物の粘膜が絡み合う水温が、室内に響き渡る。最初は亀頭やその周囲を舐めるだけだった口淫が、段々コツを掴んできたかのように、裏スジ、男根の根元まで、全体を包み込むようになっていった。

少年も、ぴっちりと閉じた秘裂をなぞり、愛液でふやけ始めたころを見計らって、ゆっくりと指を侵入させた。

「きゃン！」

指の侵入を拒むように、膣肉がきゅうきゅうと締め付けてくる。が、愛液がさらに漏れ出してきて、指がふやけてしまいそうなほどに、膣内が熱く熱く蒸れ始める。

どこまで入るのだろう？　と、その抵抗に逆らって少年はさらに膣肉をかき回すように指を入れていく。

「お、くぅ……っ」

最初は苦しそうにしていた妹紅も、指が進むごとに襲う感覚の虜になっていた。背中がその度に仰け反るので、妹紅は上手く口淫が続けられなかった。

むんっ！　と躍起になった妹紅は、喉奥まで逸物を咥え込む。まるで自分の精神全てを飲み込まれたかのような錯覚に襲われた少年は、射精の欲望がじわじわと湧き上がってくるのを感じていた。

「も、妹紅さんっ。それ以上は……で、出ちゃいますって！」

「ン、ちゅる……いいじゃん、一回出しちゃいなって。だって、ぺろっ、こんなに、ぢゅる……苦しそうだし。ちゅぅううう」

縦横無尽に逸物を這い回る舌に、少年の我慢はもう限界だった。

（ダメだ、我慢、できないっ！）

快感に身を任せ、欲望の塊を吐き出したいという思考に支配されてしまった少年の抵抗なんて、虚しいもので――

「もう……ダメです！」

出口を求めて湧き上がってくる白濁液を、鈴口から吐き出した。

「あぐっ、あ……あぁっ……あぁぁあああああ！」

びゅる、びゅるる！　ぶびゅっ、びゅるぅぅうううう！

しかし、妹紅も少年がいつ射精するかが予想できなかったため、射精の直撃を口内に受けてしまった。

「ん、ンンン!?」

かはっ、ゲホッゲホッ！　と射精収まらぬうちに口を離し、咳き込んでしまう妹紅。まだ射精の収まらない逸物が暴れ回り、妹紅の顔や髪、肌を汚していく。

射精の快感で全身が打ち震えていた少年も、ハッと我に返ると妹紅の背中を慌てて摩った。

「うわわわ！！　が、我慢できなくて、すいません！」

咳き込みすぎて涙目になっている妹紅は、怒っている様子もなく、ただ驚いているだけのようだったが、必死に謝る少年に思わず噴き出してしまった。

「あははっ。すごい勢いだったから、びっくりしちゃったよ」

「すいません……」
「もう、謝るなってば。それより……さ」
再び布団に寝転がり、仰向けの姿勢を取る妹紅。健康的な脚をモジモジとさせていたが、やがて意を決したようにその秘裂を少年へと向けた。
「私も、体の疼きが止まらないんだ……。だから、お願い……」
妹紅の大胆な誘いに、射精後間もないというのに少年の逸物は再び気力を取り戻し、天を向いて反り勃った。興奮しすぎて鼻血が出そうになるぐらい、少年の興奮は最高潮に達していた。
ゴクリと、生唾を飲み込む音が静寂を破る。
普段は活発な妹紅の女の子らしい姿に引き寄せられるかのように、少年は腰を突き出していく。
ちゅく――。性器の粘膜同士が密着した音が響く。更なる快感を渇望していた亀頭が、淫唇に包まれていく。熱く潤んだ感触に、身が蕩けそうになる。
「妹紅さん、妹紅さん！」
「んン、入ってくるぅ……」
愛液で濡れた膣内に勃起物が飲み込まれ、吸い付くように肉ビラが絡みついてきた。高まる興奮と性欲がブレーキを破壊し、少年は無我夢中で男根をねじ込んでいく。
「い、痛ッ……」
ちょうど、亀頭の全てが膣内に入った時、妹紅が眉を顰めて悲鳴を上げた。肉棒を締め付けてくる膣圧の強さに手間取っていた少年はハッと我に返る。
「えっ、まさか……」
結合部に目をやると、蜜が溢れ出した淫唇の間から破瓜の証――赤い滴が流れ落ちていた。
妹紅が処女だったことを知り、少年は動きを止める。

「だ、大丈夫ですか⁉」
大丈夫じゃないのは一目瞭然なのだが、他にどう声を掛けたらいいのか少年には分からない。
「だ、大丈夫だ……。痛みなんて慣れっこだからな……。だから、お願いだから続けてくれぇ……」
心配させまいと微笑む妹紅だが、その目尻には涙が浮かび、強がっていることはすぐに分かった。それでも自分を求めてくれる妹紅の想いに、少年の胸は熱くなる。
「分かりました。でも、辛かったらすぐに言ってくださいね」
無言で頷く少女の膣内は、挿入しているだけで我慢できずに射精をしてしまいそうなほど、強く絡み付いてくる。少しでも少女を気持ち良くしてあげようと、すぐにでも欲望を吐き出したい気持ちを我慢し、腰を使い始める。
「うっ、あぁ……いいぞ、好きに動いてくれぇ……んンっ」
始めはゆっくりと腰を前後に動かしていたが、結合部からは大量の愛液が流れ出てきた。もっと動けと、もっと気持ちよくなれと、体が正直に訴えているようだった。
（やばい……妹紅さんのなか、気持ちよすぎるっ……！）
初めて味わう女性の膣内の快感は、密着感と心地よさで格別だった。その快感を貪るように自然と腰の動きは速くなり、腰使いが次第に荒々しくなっていく。
「ひぃ！　あぁっ、んはぁ！　激し、いぃっ」
蜜でドロドロになった膣肉に勃起した逸物を突き入れるたびに、少女の小さな体が波打ち震える。徐々に甲高くなっていく嬌声に艶めいた吐息が混じり、どこかに飛んでいってしまいそうな感覚を繋ぎとめるために、布団を握る力が強くなる。

根元まで膣内に埋没した逸物を引き抜いては、再び埋まりきるほど突き刺すように激しく腰を振る。亀頭が子宮口に当たるほどに、激しいストロークが繰り返される。

「あ、ひぃ！　あぁっ！　もっと、……もっと突いてぇっ！」

ずちゃっ、ヂュッ、ズリュッ、ズチャッ！

肌に浮かぶ汗が流れ落ち、愛液と共に布団を濡らしていく。破瓜の痛みで体を強張らせていた妹紅も、いつしか一突きごとに快感に身を捩じらせ、甘い声を発し快感を訴えている。

「妹紅さんっ、気持ちいいですか⁉」

自分がこの人を感じさせているんだ、という実感が少年の心中を満たし、嬉しさが込み上げてくる。腰を使いながら、少女の胸や唇に、口付けをする余裕さえも生まれていた。

「ひゃん！　そんな、色んなところをいっぺんにっ……！」

グニグニと両手の中で形を変える乳房に心が躍る。しかし、少女は恥ずかしそうにそっぽを向いてしまう。

「わ、悪かったな……小さい胸で……」

誰もそんなことを言っていないのに、気にしているのか消え入りそうな声でごにょごにょ言う妹紅。そんな様子が愛おしくて堪らなくて、少年の腰使いは更に加速する。

「僕は、妹紅さんのだったら何でも好きですよ。愛してますから」

普段は言えないような恥ずかしい台詞も、呼吸をするようにスラスラと出てくる。少年の男らしい一面を垣間見て、妹紅はますます顔を合わせることができなくなり、両手で顔を覆ってしまった。

官能を更に刺激され、少年の逸物は硬度を増していきり勃つ。力強く刻まれる脈動の果てに、男根と膣肉の摩擦は激しさを極め、ついに射精感が込み上げてきた。

（もう、イキそうだ！）

強烈な締め付けの中を何度も貫き、パンパンに膨らんだ亀頭が子宮口を叩くたびに込み上げてくる感覚を必死に抑え込んでいたが、腰は勝手に動き出し自制が利かなくなっていた。

少年の限界は近かった。

「あ、あうぅっ！　も、う……ひぃあ、ぁあぁっ、あぁぁあぁ！」

痛々しく押し広げられた処女肉を男根が貫くたびに、少女の健康的な体は弾け、白い肌を震わせ汗を散らせる。布団の上にばら撒かれた白い髪が溶け込むように栄えて、大胆に広げられた両脚がピストンの反動で跳ね上がる。

「だ、だめだ。もうイキますっ」

「あっ、あぁあ、あはぁあああああ！」

甲高い嬌声を上げる唇に吸い付き、少女の体を抱きしめる。

お互いに、絶頂寸前だった。

「いやあっ、もう、このままっ、きゃはンっ！　あぁぁあぁぁ！」

「……ぷはっ、もう、で、出るぅっ！」

最後の締めと謂わんばかりに、柔らかい膣肉が一気に男根を包み込み締め上げた。尿道の奥まで沸きあがってきた精液を搾り取るかのような勢いに、ついに欲望が解き放たれた。

「イ、クッ……！」

トドメの一撃。一番奥までねじ込まれた亀頭が子宮口を抉じ開けるのではないかと思うほど、強く強く。膣内の最深部で、逸物が蕩けきってしまったような感覚を得たその瞬間——

びゅびゅ——びゅるるる！　どびゅっ！　びゅりゅ、びゅるぅぅうっ！

「はぁあんっ！　ひィン、中で……出てるぅ……」

「くあっ、き、……気持ちいい」
射精の快楽に少年の腰は震え、肉棒にしゃぶりつく膣内を精液であっという間に満たし、逆流した白濁液が結合部から流れ落ちてきた。
一方、汗でびっしょりと濡れた妹紅は、絶頂の余韻に浸っているのか、焦点が合わない視線を天井に向けていた。
「ばか……出しすぎだ……」
などと言っているが、その表情は幸せに満ちていた。
お互いに乱れた呼吸を整えようと、熱い吐息だけが室内にこもっていく。
少年がぐったりと腰を落とすと、逸物が膣内から引き抜かれ、ごぽっと泡だった液体が流れ出てきた。痛々しく広がる淫唇はヒクつき、精液を吐き出している。
その中に混じる薄い赤の液体を眺め、少年は少女が処女だったことを改めて確認した。
なんともいえない達成感と満足感に、少年は浸っていた。

☆

性交を終えた二人は、衣服を整えつつも、その間一切会話をしなかった。何を話していいのかが分からないので、顔を赤くしたままいそいそと着衣をしていく。
何か話題を変えなくては、と少年は妹紅のほうを見る。するとちょうど視線がぶつかり、少女は露骨なまでに顔を赤らめ視線を逸らす。憧れていた少女と身を重ねることができた実感がじわじわと湧いてきて、嬉しい気持ちでいっぱいになる。
「あの、えっと……」
それでも少年は、今言わなくちゃいけない言葉を口にしようと、勇気を振り絞った。
自分と彼女は違う時間を生きている。
必ずいつか別れるときがやってくる。
けど、それまでは絶対に――
「僕は最後まで、貴方の隣にいます。だから、もう怖がらないでください」
本当に伝えたかった『余計な言葉』は飲み込んで、本心を少女に伝えた。
初めは目を見開いていた少女も、その目尻に小さな滴をためると、自然な微笑みを返してくれた。
「当たり前だろ。お前は、私が認めた男なんだからさ！」
いつもの活発な少女に戻った妹紅は、少年の手の甲に自らの手を重ねる。
互いの視界には、愛する人だけを。
そして、唇を重ねる。
ただ唇を触れ合わせるだけのシンプルなキス。
それだけでお互いの想いが伝わったかのように、少年と少女の心の中には、安らぎが満ちていった。
未熟な恋人たちの行く末は、きっと、あの月が見守ってくれるだろう。

妹紅さん

なんとか例大祭④

R-18

描いたん→ハリヤー

これは一体何でしょう？

んっ
スリ…
くちゅ
はぁ…
じゅぬっ
うー…
はい
こっち向いてー
ぎっ
なんでこうなるかなぁ…
はぁ…
ぷるぷる
ビクッ
じっ
じっ
あふぁ
んぶっ
ちゅ
ちゅる
ぷぁ…
はぁはぁ…
じゃあ次は…
うう…
ガサ
ゴソ
?
こいつを…
ずるーん

唾えて下さい
はぁ…
キラ
キラ
はいはい…
唾えれば良いんでしょ？
唾えれば…
ガッ
んぼっ
ガボ
オ
お…ゴホッ
ちょっといきなりなにするのよっ
あ、いや…DVDだとこうだったから…
へ？
え
ばっ
それってどういう…
んぶっ
ジュボ
ぷあ…はっ
デロォ〜

じゃあおしりを
こっちに向けて～

？

おぇ…

ピトッ

ちょ!!

ぁ、
ぅぁっ
ぁぁっ
ぅぁっ
ぁぁっ
ぅぁっ
ぁぁっ

ふぅ…
それじゃあお次は体おこすよ
ぐち…
ぴっ
ぴっ
…へ？
よっ
!?
ぐぃっ
あっ
あぅっ
ぐぃっ
ぐぃっ
ぐぃ

あっ

ぶしんっ

ぶくっ

ぁぁぁぁぁっ

ドキ

ゴ

おわり

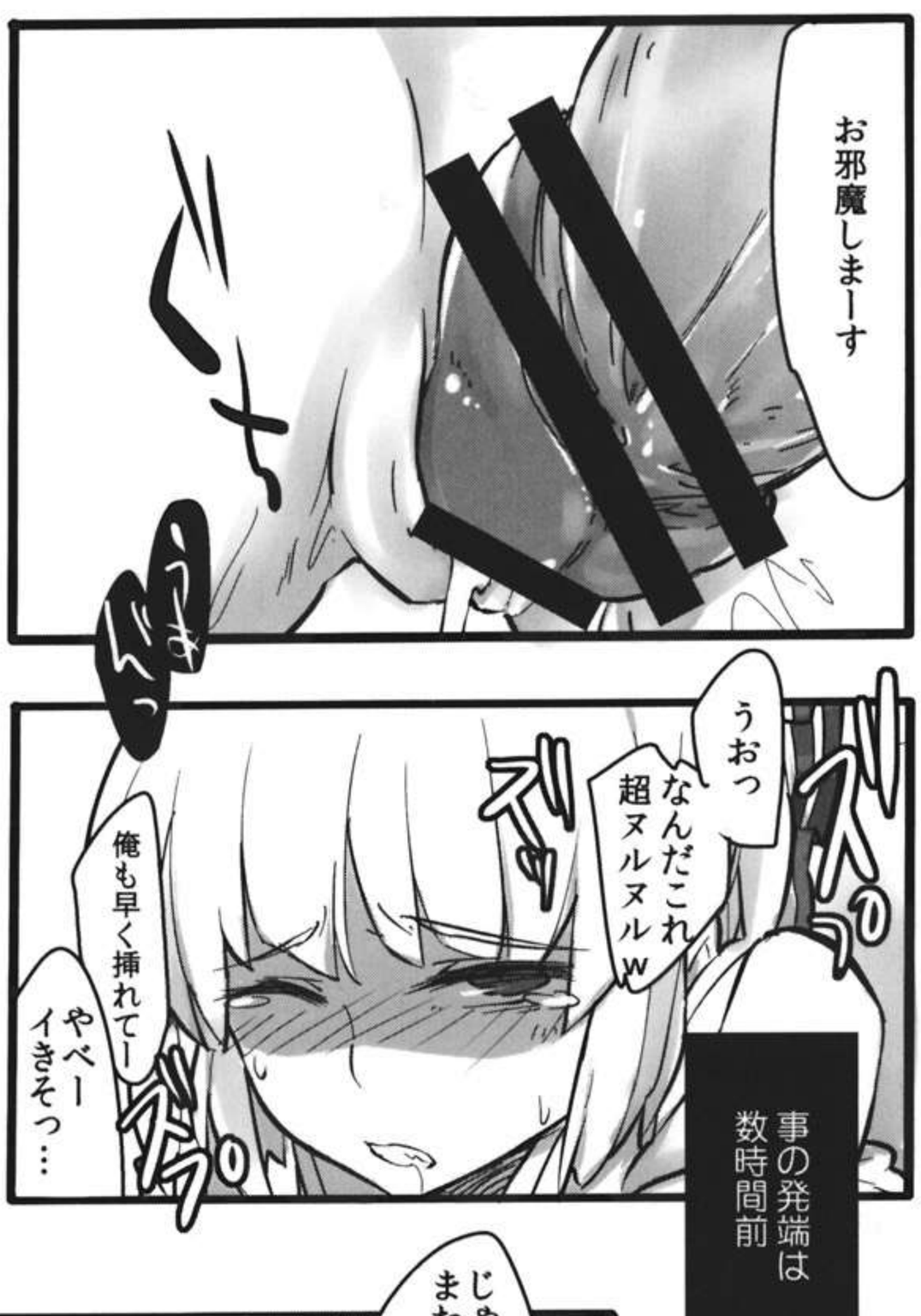
藤原妹紅を愛したい！

菊壱モンジ

あーもう射精る…ッ!!

ドピュッ

ぎゃー



すすす…

用事を済ませて
家路に着くと

見知らぬ男たちが
待ち構えていた

ただーい

ま――――…

それも
裸で…

おっおっおっおっおっ？

え

おちーん…!!?

あれ？

おおお！
妹紅ちゃん！

妹紅ちゃんだ！
マジできたー！

本物はやっぱ
可愛いねー！

え、いやちょっ

俺EXクリアできて
ないだけに感動w

え…？
なんなんですかね
これは…

ホント
可愛すぎてもう
勃っちゃったよw

妹紅ちゃんも
早く脱ごう！

ちょっと
いい加減に…

して――――っ

ずるっ

脱がしちゃえ★

ぷりん♡

……

わああああああああああああ

程よい美乳！
照れ顔も可愛い
全部可愛いw

んじゃさっそく

中出しOKって聞いたし
とことん楽しんじゃおうよw
ね？
妹紅ちゃん♪

…は？
お前ら何言って

肌白いし
ぷにぷに♪

むにゅ♡

は、離してッ

あの妖怪は無理って
言ってたけど
やっぱ妹紅ちゃん
孕ませてーな！

いきなりはキツいだろうし
コレ使っちゃう？

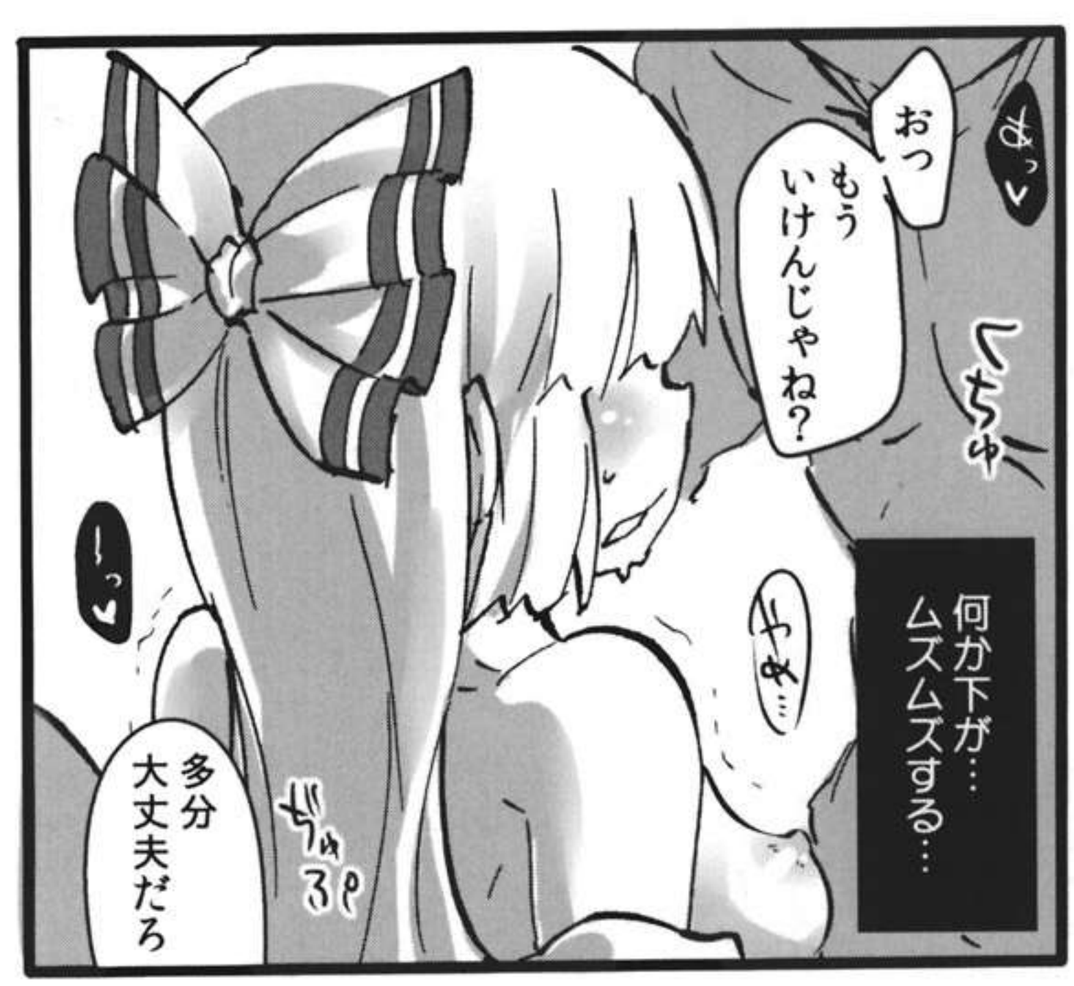
えっ

あービビらなくて
大丈夫w

気持ちよくなる
だけだからw

ドキッ…

ひゃっ！
ちょっと!!
何して…!?
まぁまぁ
このっ…
すぐ良くなるから
ちょっと待ってな
だからッ
手をどけろ！
プニ



次に足を持つから絡めて…

ふぁ…ここ？

よしよし

体が言うこと利かない

このままじゃ犯される…のに

私の膣内(ナカ)に…コレガ？ 入って…

ああもう限界！挿れちゃう…

やっ…

よっ！

だめ待っ…

ぐっ

ぬぷ

ずぶぶぶ

ぬぬぬぬぬぬぬ

ぐぷ

いきっ…ふぁっ

ずぶぶぶ

ずぶぶぶ

ぐぷッ

うはーー♪ 狭くてキツいな!!

きちゃ…っ♥

ずぶ

ぐっ

入ってるのわかる？

ぐっ

ぐっ

え…？

ってて、挿れただけですっげー締め付けw

ぐっ

なに…コレ…！ なにこれなにこれ

んじゃ動くからっ

なにこれ!?

ぷぷぷ

ぐぢゅっ

ずぢゅっ

ぐぢゅっ

ぐぢゅっ

ぐ

膣出し最高!!

おまえなー後のコト考えろよ

うっせー

妹紅ちゃんのまんこがいけないんだ

言えてる

妹紅ちゃんもイってるじゃん

ちがうっ

次オレからヤらせろなー

バックでイってみよ

好きでもない男に犯されてるのに?

きもち…いい?

んな顔晒して気持ち良かったの?

嫌がってた割に体はちんぽ好きなんだね!

私…っ

サラバ抱き枕!俺は今、大好きな妹紅ちゃんの膣内に…

インしたおっ!

うおお!!? 何だこのヌルキツまんこ!

即イきそう!

さすがに早漏すぎだろw

さっきまでハメてたのにまるで未開通のようなきっさッ!

どお? 妹紅ちゃん気持ちいい?

うん! 聞こえないな!

ココもまだまだひくつかせて…しょうがないな！
もこたん厭らしい…
やぁぁ…今いれたらやば…
よっしゃー イけっ!!
ずぶっ
ぐぽっ
ぐりぐりぐりぐり
きぃぃぃっ♥
だめだ…もう
ぐぐっ
あ、あ、あ、あ
イグぅっ♥
はぁっ
んぁっ
ぐぷっ
きもち…よすぎて あ…あたまが
まっしろに……
ぼたた…

えっ！
妹紅ちゃん何も聞いてないの？
ハイ
俺ら妹紅ちゃんが好きすぎて！魂と引き換えに君とえっちする為だけに変な妖怪と契約したんだよ？
ひどい
…はい？
何言ってんだ！俺らには妹紅ちゃんが必要なんだ！
君はもっと自分の魅力に気づくべきだ！
はーい おくちあけてー
はい…えっ？
んぁっ
ぐぃっ
とりあえず続きをしよう！

おしまい★

まぁ…たしかに…
慕ってくれる人間とのセックス気持ち良かったろ？
え？ あ……う…ん
やりすぎたかしら
ちゅぷ…
だよな！これからもいっぱいヤろうな！
……ん？
てへぺろ

藤原妹紅を愛し隊

FUJIWARA NO MOKOU FAN BOOK

EX 永遠亭

「俺達なら妹紅をもっと愛してやれる…！」コ○プレ例大祭を知ってこう思った八人が集まり語り合う座談会

◎参加者紹介（※順不同）

ことの／こ

マッツラー／マ

菊壱モンジ／菊

おじや／お

137／1

Akasia／A

ハリヤー／ハ

青時／青

◎注意…

本対談では発言等全く自重しておりません。
参加者やキャラのイメージ崩壊が苦手な方はスルーを推奨します。
苦情は一切受け付けておりません☆（てへぺｒ

菊壱モンジ（以下：菊）：じゃあはじめまーす
ことの（以下：こ）：はーい
マッツラー（以下：マ）：へいほー
菊：皆さん原稿お疲れ様でした！&こ自身の原稿やってらっしゃる方はお疲れ様です…！
菊：まずは自己紹介的なノリでお一人ずつコメントおねがいしまーす！
マ：自己紹介、っていざしろって言われたら一瞬戸惑いますよねw
137（以下：1）：ときどき。。。！
菊：大丈夫です！マッツラーさんからいきましょうかね！
マ：じゃあえっと、木公葉凡堂のマッツラーです。
竹林で妹紅と炭焼いて暮らしてます。
今回の冬コミ、色々リアルが忙しくて軽く死にそうになってますw
菊：私その炭役で
マ：妹紅ちゃんは若干ロリ入ってるほうが好きです。
こんな感じでいいんですかね？w
菊：ウッスw
マ：キクイチ炭（1kgから販売）
菊：キクイチ炭「高いよ？」
おじゃ（以下：お）：炭焼きの窯役でおねがいします！
菊：じゃあおじゃさん自己紹介で
お：わぁ！
菊：みんな自分から行かないから私順番決めちゃうよ？よ？
おじゃさん→ことのさん→Akasiaさん→137さん
マ：締めはキクイチさんね！
菊：緩くてしまらなぁい////（
マ：（。д。）
お：締めてくださいw
菊：突っ込みあざす
お：でははでは…ひー
フエルゴハンの郷という個人サークルでも本を作ったりしています、おじゃです。もこたんと初めて会った時の撃破後のギャップが忘れられません。もこたんはおばあちゃんのつもりなのに体は子供な感じが好みです！
お：よろしくお願いします！！！
こ：雪と春という二人サークルの絵担当のことのです
基本的に腐っているのでどんな話でもおいしくいただきます
妹紅ちゃんは自分の中で凛々しいかっこよさげな妹紅ちゃんが好きですが乙女なきゅるるんしてる妹紅ちゃんも好きです
妹紅ちゃんならどんなのでも好きです
よろしくおねがいします！
菊：お二人ともロリなもこたんでとてもかわゆす…！！！！
お：冬コミが楽しみすぎます！
菊：ふふふ
Akasia（以下：A）：皆さん初めまして、Akasiaです。
普段は秋刀魚工房というサークルでイラスト集を出しています。
今回はコ○プレ例大祭4に妹紅が出るという何とも言い表し難い感情と勢いでこの合同に参加させて貰いました。
妹紅は格好良い系で、所々で年季を感じさせる感じが好きです。
よろしくお願いします！
1：はじめまして、EuphorbiaStudioのおっぱい担当の137です。
今回はこのような素敵でエロスな合同にお誘い頂けて感謝しております。

1：もこたんはあの格好よいけど乙女さを兼ね備えてて凄く描いてて楽しいです！！おっぱいは大きいと信じてる派ですよろしくおねがいします！！

菊：おっぱい！
皆ちゃんとした自己紹介ですごい…
しょうもないこと考えてたのが主催の菊壱モンジです。
コ○プレ例大祭4が出るということで非常に発狂し、
ハリヤーさんと手を取り合って勃ち上がりました！！！
あ、立ち上がりました。

お：間違ってないですねｗｗ

1：合同誌的には誤字じゃないです!!勃ち上がり！！

マ：まだ見てないから勃ち上がってないんですよねぇ・・僕・・ｗ

菊：ｗｗｗ
全部はお見せできませんが、裏表紙に皆さんの一部を使わせていただいたのでこちらで紹介しますね

お：おお！

1：わくわく

A：ｷﾀｰ！のりこめ～（，ω，）

マ：あ、やったｗ(ﾟ∀ﾟ*)。○（コ○プレ例大祭4を見てないって言ったつもりだったんだが、これはありがたい）

菊：なん…だと

お：ピンクいですね…！わああみんなかわいい

1：わくわくです・・・！！

こ：おおおお

マ：何故じゃ・・・何故ＤＬできぬ・・・

菊：えっ
マッツラーさん…

マ：あ、キタ

A：こいつぁすげえ。

マ：こりゃイカン　勃ちあがった

菊：皆さんすごいエロくて流石もこたんを愛してらっしゃるなと思いました

1：かわいいなぁ。。。

こ：みなさまさすがですわぁ　愛が詰まってる

お：これは勃ち上がらずを得ない！

マ：楽しみになってまいりました(ﾟ∀ﾟ*三*ﾟ∀ﾟ)

菊：ですよ！！
私たちのもこたんをたくさんの村人たちに・・・・！！
本誌の方は○○ページくらいになりそうですね

マ：村人Ａ役（マッツラ）村人Ｂ役（マッツラ）村人Ｃ役（マッツラ）以下マッツラ

菊：予定より多くなりまして、今晩のオカズになれることを祈っております

マ：おおー・・・圧巻だなぁ

菊：村人はマッツラーさんだった

お：６０ページ全部もこたんのエロスかと思うと股間がさわぎますね

お：村人Ｄに立候補します！

マ：すまんな・・・村人Ｄも僕なんだ・・・

菊：ｗｗｗｗｗｗｗ

お：マッツラーさんｗｗ

菊：イラスト、マンガ、小説と多方面から性感帯にアタックを

マ：もこたんエロい

お：アグレッシブですね！

菊：そう、もこたんエロいんですよね

こ：妹紅ちゃんはエロい

マ：妹紅は妙に性的

菊：ところで例の見た方ってどのくらいいらっしゃるんでしょう？
ノ
こ：ノ

お：見ましたよー　ノ

マ：(・ω・)まだ見てないの・・・

1：私はあのシリーズはみてないっすね～！

A：取り敢えず流しで見ました

お：今回は下唇を噛みしめながら見ました…

こ：AVをまじまじと見たのが初めてだったので新しい感覚でしたね
妹紅ちゃんエロい。

マ：しかしあのもんぺ、、上がり過ぎである

菊：もんぺのハイウエスト感

マ：でも普通に女優さん可愛かったですよね

お：幼児体型でしたね　エロい…

菊：そしてパイパン

1：！！！！

マ：パイパンですって・・・(。д。)

お：そう　おけけがない…

1：センセーショナル・・・

こ：パイパンの上放尿やで・・・

1：OMORASHI!!!

こ：もこらし

菊：すごい噴射

マ：勃ちあがれニッポン（隠語

菊：ｗｗｗｗ

こ：今こそ勃っちーあーがーれー

マ：定めのち○ぽよ

菊：ほんともう私なぜかあのブルーレイ2枚注文しちゃってたりするくらい動揺してましたから（

マ：ｗｗｗｗ

お：ｗｗｗｗｗｗ

1：ｗｗｗｗｗｗ

菊：そのせつはことのさんありがとうございました
（引き取ってくださって
こ：いえいえ　こちらこそ私が買うきっかけを作って下さり有難うございました
菊：ｗｗｗｗｗｗｗ

菊：ではまずシコシコポケットティッシュ

マ：ひゃっほう
1：ほふほふ
どちらも知ってる方なので凄くお二方らしくて良いｗｗｗ
こ：おお
マ：じぇねさんが純情っぽいエロ絵描くとか珍しいなぁｗ
菊：そう、シコシコティッシュは青のωさんとじぇねいるさんにお願いしました！これはシコるしかない
菊：青さんにはネタっぽく、じぇねさんには艶っぽく誘うかんじの妹紅をリクエストさせていただいたんです
ありがたやありがたや…！
マ：ありがたやありがたや
お：ありがたく使わせていただこう…！
菊：つぎはエコカイロですね

菊：こちらはおとみさんにお願いしました
マ：エロカイロ？（難聴
1：かわいい！！！！
こ：うわぁ　すごいかわいい！
マ：あら可愛い！えろくなかった・・・
A：おお、可愛い！
お：可愛い！
菊：中には赤いハートのフローターと星ラメのフローターが入ってます。寒い冬にもってこいの一品ですｗ
こ：わーかわいい
こういうの冬もらえると嬉しいですね～（*´∀｀*）
マ：妹紅クラスタがカイロを煮込むのが日常化するのね・・・
お：この液状の何か自体はエロいのにおとみさんのイラストは可愛くってこの…！なんかこう背徳感があります（恍惚）
菊：全部が全部エロいものよりはおとみさんの可愛らしい妹紅に暖められて頂きたいと
マ：あんまりエロかったら外で使えませんしねｗ
菊：そうなんですよー！実用的なものでないと！！
と、いいつつクリアファイルはこうです

菊：こちらはざわめきさんにおねがいしてます
おもいっきり外では使用できません！！
1：おおおおおおお
A：ふぅ・・・・
マ：ふぅ・・・・
1：ふぅ・・・・
お：ふぅ・・・・
菊：ｗｗｗ

菊:マリアリっていつのです??
1:今出在庫ありますが2~3年前だと思いますwww

青：いまさっき帰宅しましたっと
お疲れ様です
菊・こ・マ・お・A：おかえりなさい！
菊：じゃあ青時さん早速自己紹介をw
①自己紹介／②東方の初体験相手／③妹紅を抱いた感想
こちらを赤裸々に語っていただければ^^
青：①青時（セイジとよむ）です／②初体験・・・・・・、
恋したのは妖精でした（チルノ、大ちゃん、三月精
③擬音が生々しく聞こえるように超がんばりました。水音
はエロい
強気な女の子に乙女を感じるとたぎる。またやりたい
菊：あっさりとしていて的を得た的確な回答！！！
青：*：゜：*：゜：*（*：▽：*）：*：゜：*：゜：*
菊：青時さんは唯一官能小説で参加して下さったんですよね
えろい
青：初めて書きましたね、官能小説
メロンブック○で参考資料を買い、勉強をしました（
菊：ちゃんと勉強されて…////
お：水音…！いやおうなく期待が高まります！
菊：文字だけのエロさってすごいとおもうんですよ。
色々と想像ができますし息子と共に膨れ上がっていきますし
こ：わくわく！
青：ちゃんと皆さんが勃起してくれることを願います〉〉
菊：夜寝る前にお布団の中でこっそり読んで頂きたい。
お：枕元にそっと置いて大事に読みます
青：絵は皆さんが読みながら初めてイメージされるものなので
菊：脳内どころか口に出して読みますね（
お：wwww
青：朗読会はやめてぇwww

藤原妹紅を愛し隊

FUJIWARA NO MOKOU FAN BOOK

隊員名簿

MEMBER COMMENT

隊員名：青時

所属部隊：影紡糸

http://phlox.sakura.ne.jp/kageboushi/

pixivID: 424617
twitterID: seiji_cr

備考：初めての官能小説です。エロデビューです。
普段強気な女子の弱気な姿って、そそりますよね。

隊員名：ハリヤー

所属部隊：ハリゴン

http://toguso.blog49.fc2.com/

pixivID: 79245
twitterID: hariyaa

備考：<(^o^<三>^o^)> <ロオオオオオアアアア

隊員名：137

所属部隊：EuphorbiaStudio

http://est.or-hell.com/

pixivID: 262362
twitterID: ii137ii

備考：もこたんのおっぱいでタケノコずりをしてもらおうと思いましたがボツにしました。
…してよかったと思います。

隊員名：ことの

所属部隊：雪と春
主にpixivやツイッターで
活動報告しています

pixivID: 1696776
twitterID: kotskm

備考：妹紅ちゃん可愛いよ妹紅ちゃん
有難うございました！

隊員名：マッツラー

所属部隊：木公葉凡堂
サイトは今作ってるんですが、難しいですね

pixivID: 188609
twitterID: matturaSan

備考：この合同誌に出ている男性は全員僕だと思って読もうと思います。

隊員名：Akasia

所属部隊：秋刀魚工房

http://akasiaworksing.web.fc2.com

pixivID: 109404
twitterID: Akasiaxx

備考：ハクタク化したけーね先生の夜は積極的だと信じてる。満更でもない妹紅hshs

隊員名：おじや

所属部隊：フェルゴンの郷

http://oziya-magicrice.skr.jp

pixivID: 3616239
twitterID: oziya_magicrice

備考：もこたんのギャップ萌えは国の宝

隊員名：さわめき

所属部隊：さわめき じゃんぼ

http://hm1128.blog121.fc2.com

pixivID: 603264
twitterID: zawamekii

備考：もこたんぺろぺろぺろぺろ！ハッ…おいしいよっ おいしいよおもこたん！ハッハッ♡オッウッ…！

隊員名：にしお

所属部隊：不純喫茶はべるか

http://hawelkka.jugem.jp

pixivID: 132760
twitterID: nissio

備考：雰囲気エロが大好きなので描きました
お誘いありがとうございました！

隊員名：青の3

所属部隊：羊ほえほえ

http://blog.hituji-hoeru.pupu.jp/

pixivID: 60121
twitterID: aono3

備考：もことムーミンみたい

隊員名：おとみ

所属部隊：シロクモジャ

pixivID: 651112
twitterID: otomiotomi

備考：今回は素敵な企画にお誘いいただきありがとうございました！
妹紅大好きだよ。大好きだよ。

隊員名：おおあめ

所属部隊：大飴屋

http://oameya.com

pixivID: 4212693
twitterID: o_ame

備考：うどん力を高めるのです。

隊員名：神無 小春

所属部隊：ふぁっとぼ～い

冬コミは
2日目東ア-12a

pixivID: 443445
twitterID: genei1556

備考：神奈川県のリバー・フェニックスとはオレの事
あ、もこたん好きですとか書いておけばイイッスか？

隊員名：菊壱モンジ

所属部隊：1569

http://kiku.itigo.jp

pixivID: 824331
twitterID: kiku1569

備考：じつはもこたんまでたどりつけない
（ふるえ声）

…以上
藤原妹紅を愛し隊　隊員十四名
平成二十四年　十二月三十日

EX 永遠亭

ご愛妹紅

ありがとうございました

藤原妹紅を愛し隊

FUJIWARA NO MOKOU FAN BOOK

- 主催挨拶

この度は当合同誌を手にとって下さりありがとうございます。
成人向け合同は初めてだったのですがいかがでしたでしょうか？
イラスト、漫画、小説と、絵から文字から妹紅とちゅっちゅできる内容となっております。
少しでもお楽しみ頂けたなら幸いです。

また、沢山の方にご協力頂きこうして完成となりました。
この場を借りてお礼申し上げます。

私たちは藤原妹紅が大好きです！

菊壱モンジ

CREDIT

-漫画・イラスト参加
137／Euphorbia Studio
ことの／雪と春
Akasia／秋刀魚工房
にしお／不純喫茶はべるか
マッツラー／木公葉凡堂
おじや／フエルゴハンの郷
青時／影紡糸
ハリヤー／ハリゴン
菊壱モンジ／1569

-ノベルティイラスト参加
おとみ／シロクモジャ
青の３／羊ほえほえ
神無小春／ふぁっとぼ～い
ざわめき／ざわめきじゃんぼ

-SPECIAL THANKS
いいも
しゃばだば
むらしん
くろやん

（※順不同）

-WEBデザイン＆ロゴデザイン＆表紙デザイン
おおあめ／大飴屋

-編集
蓬利シンジ／1569・EX永遠亭

-主催
菊壱モンジ／1569・EX永遠亭

藤原妹紅を愛し隊

FUJIWARA NO MOKOU FAN BOOK

●発行日／
2012年12月30日 - C83

●発刊／
EX永遠亭（1569）

●発行者／
菊壱モンジ

●印刷所／
コーシン出版

●原作／
上海アリス幻樂団

●特設サイト／
http://love.mokou.in

◎注意／
本誌の無断転載・複写・アップロード等を禁止します。
ネットオークションへの出品等もご遠慮下さい。

の名前は藤原妹
てはいたが、設
よって、妹紅の友
年は一途に、妹
って、甲斐甲斐
なー」と相手を
になり、満更で
妹紅にとって、
区分は異なるが

☆

「妹紅さーん！
——あぁ、今

Illust&Comic&Novel

Akasia / 137 / おじや / 菊壱モンジ / ことの / 青時 / にしお / ハリヤー / マッツラー

Novelty Illust

青の3 / おとみ / 神無小春 / ざわめき

Design

おおあめ

COLOR monochrome	B5 SIZE
60PAGE	OFFSET printing

DOJIN R18 成人向け

紙 ちょっぴりやさしい 妹紅の利用

-ご利用上の注意-
■この同人誌は成人向けです。
18歳未満の購入、閲覧は法律と
慧音により禁止されております。
■本誌内の妹紅は多数のキャラ、
モブ男とおセックスしております。
■コス○レ例大祭とは関係ありません。
■今晩のオカズにご利用下さい。